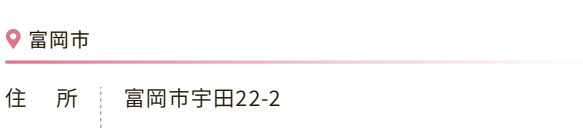




株式会社土屋合成

製品メーカーとして プラスチックに向き合う 分別見直しや廃棄物削減



富岡市

住 所 富岡市宇田22-2

T E L 0274-64-5252

M a i l info@tsuchiya-gousei.com

U R L http://www.tsuchiya-gousei.com/

代表者 土屋 直人

設 立 1972年12月1日

資本金 1,000万円

従業員 81人

WEBサイト



企業紹介

昭和47年、日本近代産業発祥のふるさと富岡市にて創業。

(株)土屋合成はプラスチック射出成形品加工メーカーとして精密機構部品・時計の外装部品等を発足当初から手掛け、多岐にわたる分野へ業務を拡大。長年にわたり蓄積されたノウハウに更なる技術・設備向上を目指し、精密・高難度の成形加工に務めています。

創業以来、納期・品質・コストそして何よりもお客様の声に常に対応することを第一に取り組んでいます。

経緯・背景

2021年7月世界経済フォーラムにてプラスチック製容器の10%を再利用することで年間のプラスチック海洋廃棄物のほぼ半分を削減可能なレポートが示され、今後はサーキュラーエコノミー、再利用が前提となる社会となることが予想されます。

プラスチック製品を製造する企業として「何ができるのか」「自社の特色を活かして持続可能な社会へ貢献する」という考えのもと、「廃棄物削減」「デジタル」というキーワードで取組を進めています。

意識高めて再利用率向上 IoT技術の活用により 働きやすい環境実現

具体的な取組・成果

● 分別の大切さを実感

以前は専任で分別していたものを、使用者自らが実施することで、分別の意識が高まりました。



分別表記で材質確認を徹底している

その結果として、新型コロナウイルス流行前の2019年と比較し再利用可能なものが37.5%増加。

廃棄物ではなく資源として活用できるようになりました。

小さなことかもしれませんが、今後もこのような小さなことでも皆が行動すること、積み重ねることでSDGsに貢献していきます。

分別だけではなく、廃材を利用してフェイスシールドの生産・販売を開始しました。

コロナ禍と環境の課題の両面から取り組んでいます。



廃材を利用したフェイスシールド

● IoTの活用

集中監視システム・生産実績システム・自動検査機を導入し、製造・生産管理・品質管理という多方面から省力化を図っており、様々な境目に対してIoTを活用してバリアフリー化することで皆が働きやすい環境づくりを行っています。

DX化に向けて所属の垣根を超えたミーティングを定期的実施。アジャイル思考を身に付けられるように改善を繰り返しながら取組を進めています。



IoTを活用している工場

当社にとってのSDGsビジョン

「SDGsを日常にすることで、お客様との共存・共栄を目指して、人類と社会の未来に貢献する。」SDGsの取組を難しく考えず、まずは身近なことから実践し、自分の仕事がSDGsの活動に繋がっていると実感し、お客様の要望を実現し、人類と社会の未来に貢献できることを感じられる環境を整えていきます。

今後の展望と求めるパートナー像

「ゼロエミッションへの挑戦」

今後は現状の活動を継続し定期的なミーティングを実施。

アウトプットをどのように削減するか、資源として再利用するかという視点から「2050年カーボンニュートラル」に向けてゼロエミッションへ挑戦し、サーキュラーエコノミー社会の実現に貢献します。